

ユーグレナ社、ASEAN におけるバイオ燃料協業を加速 第三回 AZEC 閣僚会合サイドイベントセレモニーにて取組を紹介

株式会社ユーグレナ

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲 充）は、2025 年 10 月 17 日（金）、マレーシア・クアラルンプールで開催された第 3 回 AZEC（Asia Zero Emission Community、「アジア・ゼロエミッション共同体」）閣僚会合のサイドイベントとして行われたセレモニー（以下「本セレモニー」）に参加いたしました。本セレモニーでは、日本と AZEC 加盟国との協力関係が紹介されました。



セレモニーの様子

AZEC とは、日本やマレーシアを含む 11 カ国の AZEC パートナー国が参加し、域内のカーボンニュートラル／ネット・ゼロ排出に向けた協力のための枠組みで、10 月 17 日（金）に マレーシア・クアラルンプールにて AZEC 閣僚会合と本セレモニーが開催されました。

既報の通り、当社は PETRONAS Mobility Lestari Sdn Bhd（Petroliam Nasional Berhad（PETRONAS）の子会社で本社マレーシア）及び Enilive S.p.A.（Eni S.p.A.の子会社で本社イタリア）と共同で、マレーシアにおいて商業規模のバイオ燃料製造プラント（以下「本プラント」）を建設・運営するプロジェクトを推進しており、本プラントの建設・運営を担う合弁会社「Pengerang Biorefinery Sdn. Bhd.」（以下「本合弁会社」）への出資比率を 2025 年 7 月 16 日付で 15%に引き上げております（以下「本出資」）※。本セレモニーにおいて、当社は、PETRONAS 社と共に、本出資の完了について発表致しました。

※ 2025 年 7 月 17 日のニュースリリース「ユーグレナ社、マレーシア商業プラントへの 15%出資が完了」

(<https://www.euglena.jp/news/20250717-1/>)

本プラントでは、SAF（持続可能な航空燃料）や HVO（次世代バイオディーゼル燃料）などの製造を予定しており、本出資の完了により、当社は年間約 10 万 KL のバイオ燃料の取り扱いを見込んでおります。2028 年後半に予定している稼働開始に向けて、本プラントの建設にかかる工程は順調に進捗しており、今後建設がより本格化していく予定です。



本プラント建設現場の様子（2025 年 6 月）

本プラントの建設・運営に向けた一連の取組みは、ユーグレナ社が ASEAN 地域におけるバイオ燃料事業を本格展開する重要な一歩であるとともに、AZEC の目指す脱炭素社会の実現に向けた象徴的な国際連携として位置づけられます。

ユーグレナ社は、本プラントをはじめとして、今後も様々な側面から脱炭素化に向けた取り組みを進め、「人と地球を健康にする」というパーパスの実現に貢献してまいります。

<株式会社ユーグレナについて>

2005 年に世界で初めて微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ）の食用屋外大量培養技術の確立に成功。「Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）」をユーグレナ・フィロソフィーと定義し、微細藻類ユーグレナ、クロレラなどを活用した食品、化粧品等の開発・販売、バイオ燃料の製造開発、未利用資源等を活用したサステナブルアグリテック領域などの事業を展開。2014 年より、バングラデシュの子どもたちに豊富な栄養素を持つユーグレナクッキーを届ける「ユーグレナ GENKI プログラム」を、継続的に実施している。<https://euglena.jp>